

## 家政学における方法論の検討と検証について (Ⅲ)

— 食物繊維の研究経過よりみて —

郡山女大家政 ○齊藤洋子、関口高左

目的：本研究は家政学部食物栄養学科における一研究として、食物繊維の研究ととりあげ、関口らの提唱している独自の家政学の方法論の検討および検証と試み、家政学の方法論の樹立に資そうとする。

方法： 家政学の方法論 (理論) — 全体的	左記の検討および検証 — 食物繊維の研究 (実際) — 部分的
I. 無記性的研究方法 — 価値を導入しない そのものの研究、それは何か。……	(I) 物的基礎研究 — 食物繊維がいかなる物質であるかを調べる。(構造、物理的性質、含量)
II. 使用価値的研究方法 — Iにおける成果をもとにそのものは(ことは)、いかなる価値をもつかと求める。	(II) 生理学的研究 — (I)の成果をもとにラットおよび生体において食物繊維がいかなる生理的結果(十、一)を示すかを調べる。
III. 価値創出的研究方法(人と物との一元的研究) — IIにおける成果を人間の価値実現のためにどのように用いるか、その方法の研究(総合化)と、それによつての実際的結果と捉える。	(III) 日常生活での食物繊維の用い方についての研究(IV)で明らかとなつた生理的効果を生かすための食事の調製とその摂取結果の研究に及ぶべきで、本研究は今後、調理学、栄養学、医学等との総合研究にまたねばならない。

成果：上記(I)~(III)の実際とI~IIIの理論とを比較検討する時、従来の研究方法は(I),(II),(III)が必ずしも連動的な研究として家政学の目的に達しない。(I)~(III)が単独で行われたり、(I),(III)で終了し、また(III)のみ別個で行われるなどあった。本理論をパターンとしつつ実際研究が行われる時、総合研究をかみしつゝ家政学の独自の成果が達せられよう。